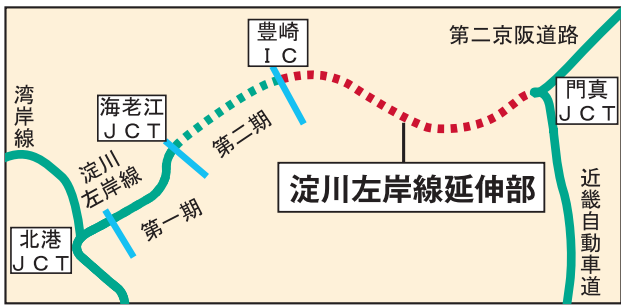


阪神高速 淀川左岸線2期

安全性おいでけぼり

淀川左岸線



阪神高速淀川左岸線は湾岸線と新御堂筋までの約10キロを結ぶ自動車専用道路。昨年5月に1期(大阪市此花区北港―同区高見、5・6キロ)が開通。2期事業(同区高見―北区豊崎)は、06年度から大阪市の街路事業と阪神高速道路株式会社との合併施行で事業化しました。総事業費1330億円のうち1240億円を、

財界`延伸で環状に、

国と大阪市が負担します(2021年4月供用予定)。淀川左岸線延伸部計画(北区豊崎―門真市穂島、約10キロ)は、大和川線や近畿自動車道などをつないで「都市再生環状道路」を形成するもので、事業費は3〜4千億円ともいわれ、橋下徹大阪市長や関西財界は開発推進を声高に叫んでいます。



「中津リバーサイドコーポ環境を守る会」の廣瀬代表らの案内で、淀川左岸堤防を視察する辰巳参院議員＝5月24日

堤防に高速道路`埋め込み` 全区間で液状化の危険

着工に向け準備が進む阪神高速淀川左岸線2期事業の安全性が問題になっていきます。同事業は淀川左岸堤防に高速道路を埋め込むという、全国的にも例のない計画。地震による液状化で堤防が沈下する可能性も指摘されている中、日本共産党の辰巳孝太郎参院議員は地元住民運動関係者と力を合わせ、国会で追及しています。

例のない埋め込み式

液状化により 堤防沈下する

2期事業沿線にある大阪市北区中津2の団地「中津リバーサイドコーポ」(4棟、868世帯)。住民をつくる「中津リバーサイドコーポ環境を守る会」は2012年に2期事業区間の淀川左岸堤防の液状化問題な

どで橋下徹大阪市長に質問書を提出しました。大阪市建設局は「地震による液状化によって、堤防が沈下すると想定しています」と初めて認めました。ことし4月にも、大阪市と阪神高速道路株式会社は「ほぼすべての区間で液状化の危険度が高い」と回答しています。

「公害道路反対」を掲

「強靱化」どころか「軟弱化」

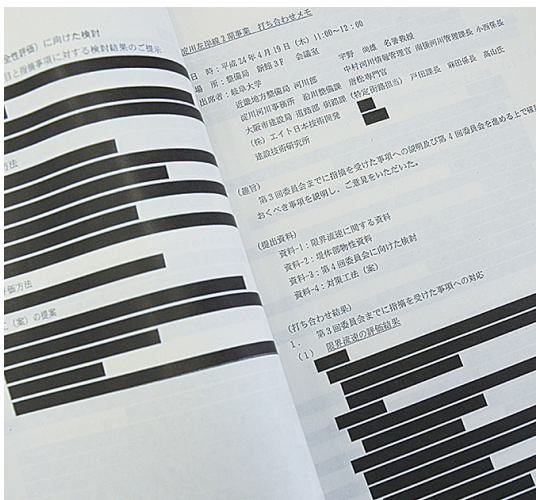
辰巳参院議員が中止求める

参院国土交通委員会で2期事業について質問する辰巳参院議員＝5月27日

は「検討委員会の議事は原則非公開。公開の範囲は委員会が判断すべきもの」と答えるにとどまりました。

老朽化対策を 優先すべきだ

辰巳氏は阪神高速の利用率が減っている中で、さらに左岸線延伸部計画を進めるのは無用だと強調。延伸部を造るお金があるなら、老朽化対策を優先すべき。南海・東南海地震が高い確率で発生すると言われている。地盤の弱いところに、わざわざ堤防の中に高速道路を造るのは、『国土強靱化』どころか『国土軟弱化』だ」とし、2期事業の撤回と中止を求めました。



黒塗りだらけの「技術検討委員会」の議事録

の判決(ことし3月)では、「率直な意見交換や中立的な意思決定が不当に損なわれる」などとして、黒塗りとされた部分は非公開とする判断を下しました。

委員の発言は 黒塗りだらけ

一方、技術検討委員会の議事録を情報公開請求しても、開示された文書は委員の発言などはすべて黒塗り。廣瀬さんや会が非公開処分の取り消しを大阪地裁に求めた裁判

辰巳参院議員は5月24日に2期事業の予定地を視察し、同月27日の参院国土交通委員会で質問に

